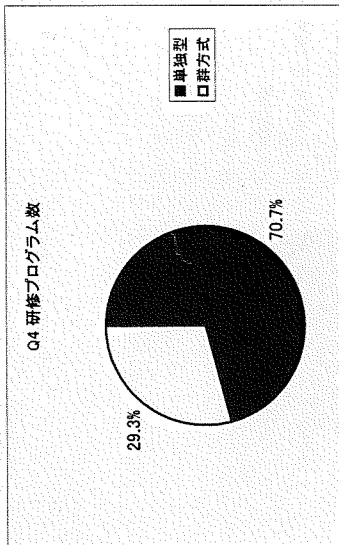


別添資料 8

管理型／単独型臨床研修施設向け研修の効果に関するアンケート

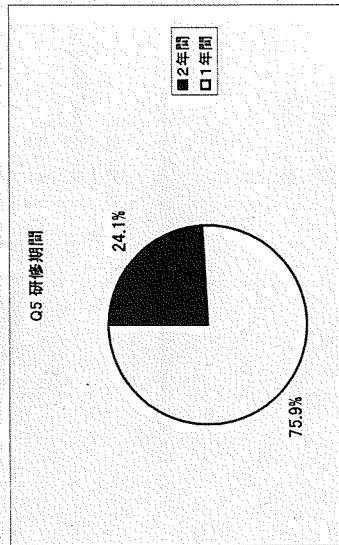
Q4 臨床研修プログラム数を回答ください (プログラム)

単独型	133プログラム
群方式	55プログラム
合計プログラム数	188プログラム



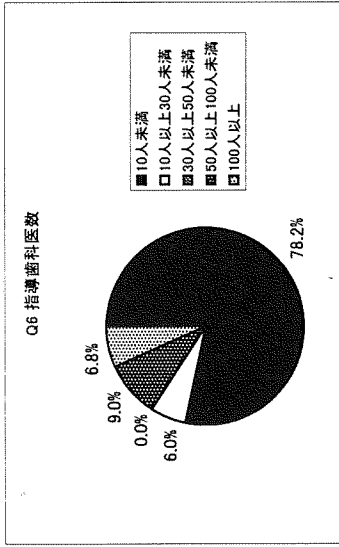
Q5 臨床研修プログラムの研修期間を回答ください

2年間	32施設
1年間	101施設
回答数	133施設



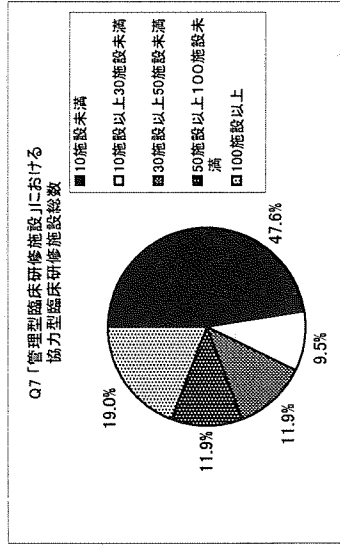
Q6 指導歯科総数を回答ください

10人未満	104施設
10人以上30人未満	8施設
30人以上50人未満	0施設
50人以上100人未満	12施設
100人以上	9施設
回答数	133施設



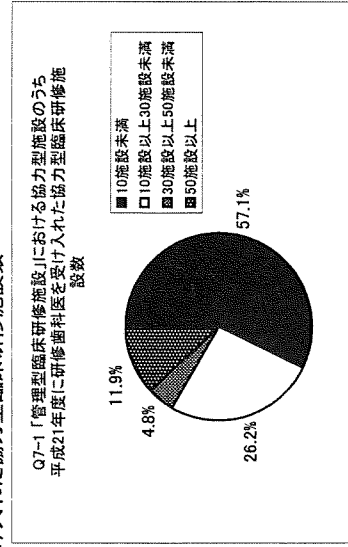
Q7 Q2にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。真施設の指定を受けている協力型臨床研修施設総数を回答ください

10施設未満	47.6%
10施設以上30施設未満	9.5%
30施設以上50施設未満	11.9%
50施設以上100施設未満	11.9%
100施設以上	19.0%
回答数	100



Q7-1 Q2にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。Q7のうち平成21年度に研修歯科医を受け入れた協力型臨床研修施設

10施設未満	57.1%
10施設以上30施設未満	26.2%
30施設以上50施設未満	4.8%
50施設以上	11.9%
回答数	100



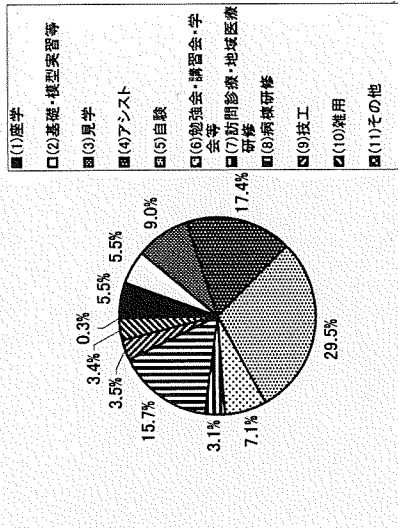
Q9 貴施設のすべての研修内容を100%として、各研修内容の時間ベース%を回答ください。複数のプログラムがある場合は、定員が最も多いプログラムについて回答ください

【全体平均】

(1)座学	5.5%
(2)基礎・模型実習等	5.5%
(3)見学	9.0%
(4)アシスト	17.4%
(5)自験	29.5%
(6)勉強会・講習会・学会等	7.1%
(7)訪問診療・地域医療研修	3.1%
(8)病棟研修	15.7%
(9)技工	3.5%
(10)雑用	3.4%
(11)その他	0.5%
100	

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q9 研修内容の割合(全体平均)

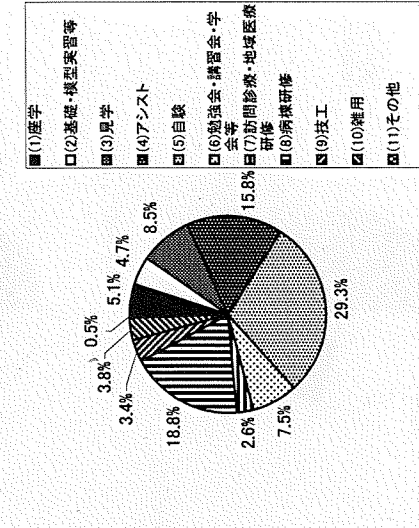


【単独型臨床研修施設のみ平均】

(1)座学	5.1%
(2)基礎・模型実習等	4.7%
(3)見学	8.5%
(4)アシスト	15.8%
(5)自験	29.3%
(6)勉強会・講習会・学会等	7.5%
(7)訪問診療・地域医療研修	2.6%
(8)病棟研修	18.8%
(9)技工	3.4%
(10)雑用	3.8%
(11)その他	0.5%
100	

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q9 研修内容の割合(単独型臨床研修施設のみ平均)

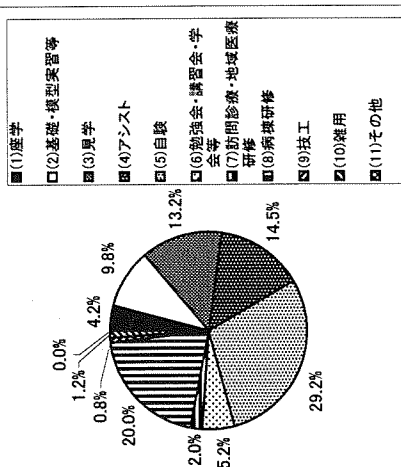


【管理型臨床研修施設のみ平均】

(1)座学	4.2%
(2)基礎・模型実習等	9.8%
(3)見学	13.2%
(4)アシスト	14.5%
(5)自験	29.2%
(6)勉強会・講習会・学会等	5.2%
(7)訪問診療・地域医療研修	2.0%
(8)病棟研修	20.0%
(9)技工	0.8%
(10)雑用	1.2%
(11)その他	0.0%
100	

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q9 研修内容の割合(管理型臨床研修施設のみ平均)

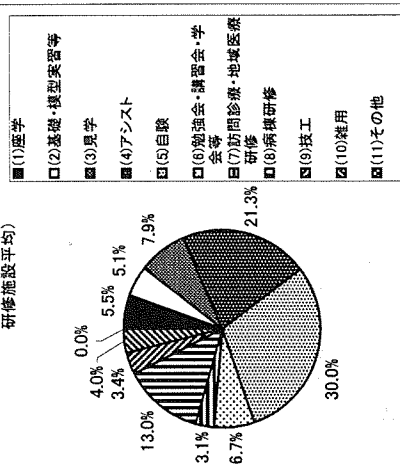


【単独型臨床研修施設+管理型臨床研修施設平均】

(1)座学	5.5%
(2)基礎・模型実習等	5.1%
(3)見学	7.9%
(4)アシスト	21.3%
(5)自験	30.0%
(6)勉強会・講習会・学会等	6.7%
(7)訪問診療・地域医療研修	3.1%
(8)病棟研修	13.0%
(9)技工	3.4%
(10)雑用	4.0%
(11)その他	0.0%
100	

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q9 研修内容の割合(単独型臨床研修施設+管理型臨床研修施設平均)

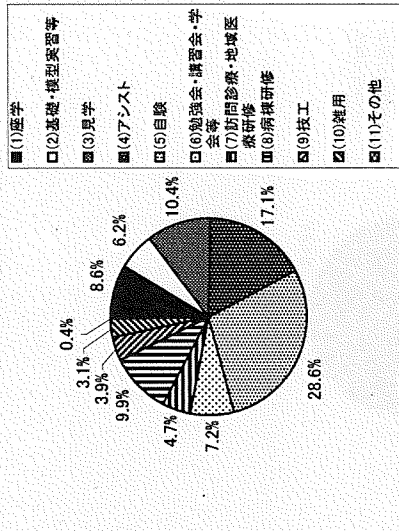


【単独型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設 平均】

(1)座学	8.6%
(2)基礎・模型実習等	6.2%
(3)見学	10.4%
(4)アシスト	17.1%
(5)自験	28.6%
(6)勉強会・講習会・学会等	7.2%
(7)訪問診療・地域医療研修	4.7%
(8)病棟研修	9.9%
(9)技工	3.9%
(10)雑用	3.1%
(11)その他	0.4%

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q8 研修内容の割合（単独型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設平均）

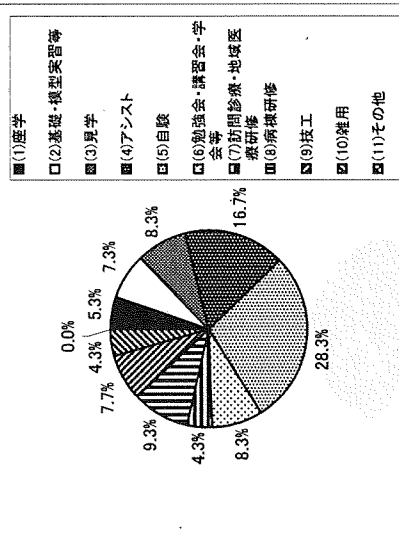


【単独型臨床研修施設＋管理型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設 平均】

(1)座学	5.3%
(2)基礎・模型実習等	7.3%
(3)見学	8.3%
(4)アシスト	16.7%
(5)自験	28.3%
(6)勉強会・講習会・学会等	8.3%
(7)訪問診療・地域医療研修	4.3%
(8)病棟研修	9.3%
(9)技工	7.7%
(10)雑用	4.3%
(11)その他	0.0%

注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q9 研修内容の割合（単独型臨床研修施設＋管理型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設平均）

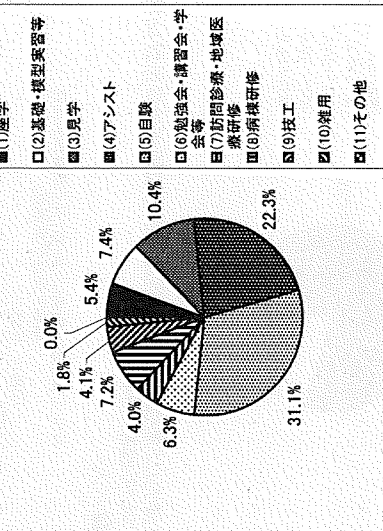


【管理型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設 平均】

(1)座学	5.4%
(2)基礎・模型実習等	7.4%
(3)見学	10.4%
(4)アシスト	22.3%
(5)自験	31.1%
(6)勉強会・講習会・学会等	6.3%
(7)訪問診療・地域医療研修	4.0%
(8)病棟研修	7.2%
(9)技工	4.1%
(10)雑用	1.8%
(11)その他	0.0%

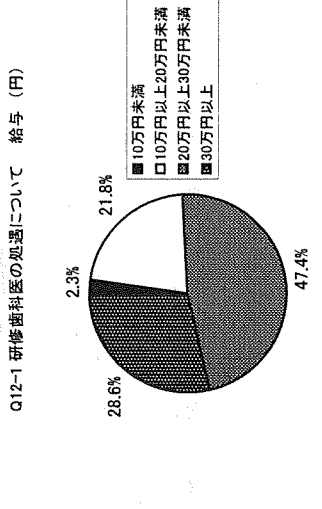
注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q8 研修内容の割合（管理型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設平均）



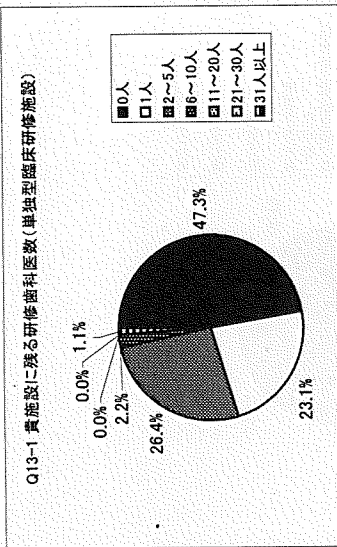
Q12-1 研修歯科医の処遇について回答ください 給与（円）

10万円未満	3施設
10万円以上20万円未満	29施設
20万円以上30万円未満	63施設
30万円以上	38施設
回答数	133施設



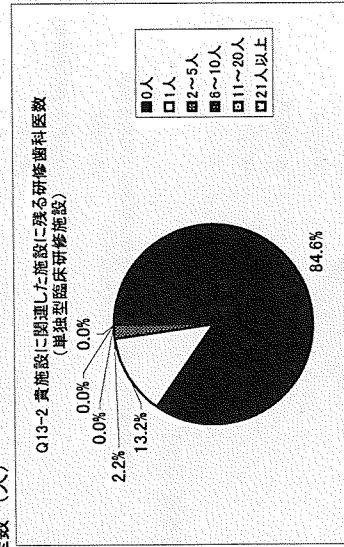
Q13-1 Q2にて「単独型臨床研修施設のみ」または「単独型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設」と答えた方に質問です。研修歯科医の進路について回答ください

貴施設に残る研修歯科医数 (人)	43施設
0人	1施設
1人	21施設
2～5人	24施設
6～10人	2施設
11～20人	0施設
21～30人	0施設
31人以上	1施設
回答数	91施設



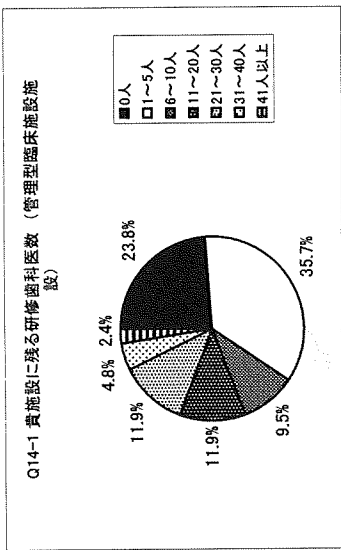
Q13-1 Q2にて「単独型臨床研修施設のみ」または「単独型臨床研修施設＋協力型臨床研修施設」と答えた方に質問です。研修歯科医の進路について回答ください

貴施設に関連した施設に残る研修歯科医数 (人)	77施設
0人	12施設
1人	2施設
2～5人	0施設
6～10人	0施設
11～20人	0施設
21人以上	0施設
回答数	91施設



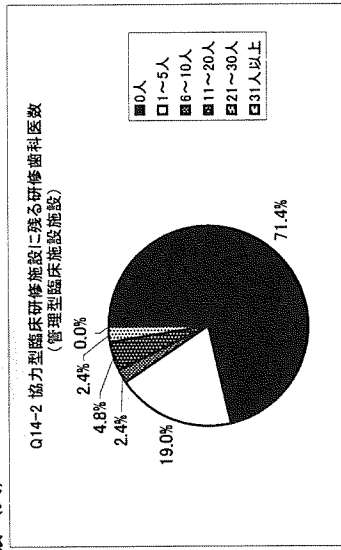
Q14-1 Q2にて「管理型臨床研修施設」を含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。研修歯科医の進路について回答ください

貴施設に残る研修歯科医数 (人)	10施設
0人	15施設
1～5人	4施設
6～10人	5施設
11～20人	5施設
21～30人	2施設
31～40人	1施設
41人以上	42施設
回答数	



Q14-2 Q2にて「管理型臨床研修施設」を含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。研修歯科医の進路について回答ください

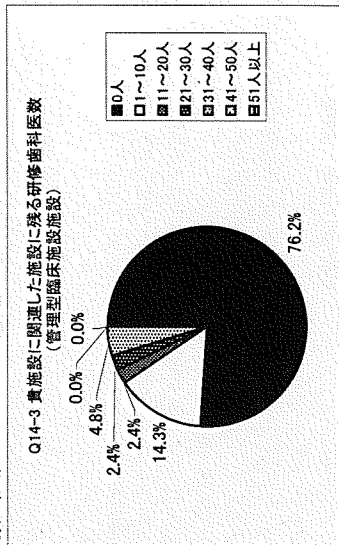
協力型臨床研修施設に残る研修歯科医数 (人)	30施設
0人	8施設
1～5人	1施設
6～10人	2施設
11～20人	1施設
21～30人	0施設
31人以上	47施設
回答数	



Q14-2 Q3にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2,3,5,6)をされた方に質問です。研修歯科医の進路について回答ください

貴施設に関連した施設に残る研修歯科医数 (人)

0人	32施設
1~10人	6施設
11~20人	1施設
21~30人	1施設
31~40人	2施設
41~50人	0施設
51人以上	0施設
回答数	42施設



別添資料9

Q25 研修歯科医に望むことを記載してください。(抜粋)

- 将来の目的に向けて積極的に研鑽を積んでほしい。患者との関係だけでなく、スタッフとの人間関係にも気をつかってほしい。
- 臨床研修は、生涯研修のスタートであることを認識して欲しい。
- 卒前教育において、歯科医スタートに関する知識・技術を十分習得し、一般歯科治療は一通りできるようにになってほしい。また、患者との良好な人間関係を築けるようにトレーニングしてきてほしい。
- 働くという意志をしっかり持って、積極的な態度で研修して欲しい。・基本的術式は覚えて卒業してきて欲しい。・せめてマネキンでできるようになって来て欲しい。
- 向上心を持ち、日本の歯科医療の担い手として精進してほしい。
- 歯科医師というものが一般歯科治療だけでなく、知識も技術も体全体を診る必要があることを自覚してほしい。また、大学病院で研修している以上、教育・研究も必要であることを認識して研修に取り組んでいただきたい。
- 自ら学習すること。コミュニケーション能力の向上。
- 早い技術の修得のみに専念するのではなく、それぞれの研修施設でしか経験出来ない事例や症例について十分検討してほしい。
- 歯科医療の研修以前に社会人としてのモラル、節度や礼儀も身につけてください。
- 一医療人としての自覚をもって研修に取り組んで欲しい。
- 研修歯科医のメンタルヘルスの向上、技術・知識の向上とともに研究に対する意欲の向上。
- 歯科医師としての自覚をもち、責任ある言動、行動をとってほしい。給料を受けて働いている身でありながら、学生気分が抜けない人が多い。

Q26 協力型臨床研修施設に望むことを記載してください

- その地域に合った診療体系を見せてほしい。
- 研修歯科医のメンタルヘルスに関することの理解。
- 管理型施設と密に連絡をとり、研修医の現状把握を十分に行って欲しい。
- 病院歯科とは異なる点(経営面も含めて)指導していただきたい。
- 当施設で学ぶことができない(学ぶ機会が少ない)訪問診療や在宅診療、小児歯科診療など。
- 基準を満たしていない施設が多い(協力型施設の指定を受けた後)。

別添資料 10

アンケート結果照会ページ(2010年3月1日締め切り時点)

- Q27 国に望むことを記載してください。(抜粋)
- 事務手続きが煩雑すぎる。国家試験合格から、研修開始までの日程が短すぎて、国試不合格者の定員補充に手間取る。また、研修開始後のプログラム調整に問題が発生する。少なくとも3月20日までに発表してほしい。
- 歯科医師臨床研修制度改正、歯科医師臨床研修に対する理解の推進。
- 指導医のモチベーションが上がらるよう、指導医手当を創設するなど財政的な支援をお願いしたい。
- 研修期間を2年に延長してほしい。
- 予算や施設等の面で、医師臨床研修と同様の取扱いをしてほしい。
- 研修指定病院への診療報酬上の加点・増点を検討してほしい。
- 卒前(学部)教育の充実と、卒前教育と卒後教育のより効率的な連携が取れるような教育システムを構築して頂きたい。
- 研修歯科医の大学卒業時の臨床経験について統一基準を作りつつも重要視すべきである。(特に「指導医」の待遇改善を強く望む。
- 研修医制度は今後も必要と思いますが、やはり卒前における程度の臨床経験を積む教育が必要と考えます。今の状態だと殆ど何も出来ない状態で卒業してくるので、スタート地点が低すぎるように思います。また研修終了後の就職先についても困っている研修医がいるようですので、後期研修制度も含めて考慮頂きたい。
- 歯学部と医学部の教育内容に共通項が少ないことが、研修に限らず、医療上の課題として存在しています。歯学部の教育内容を充実させ、歯牙以外の多くの疾病を抱える患者の歯科医療需要を満たす必要があります。医師とともに研修を行う病院での研修は患者にとっても、歯科界にとっても、非常に重要です。病院での研修を拡大することが可能な制度の充実が必要です。
- 現在、麻酔科研修やICUでの研修で、歯科医師が診療できる範囲が狭くなり、全身疾患に対する知識や技術の低下が見られている。このため、研修期間も含め、歯科医師のICUや麻酔科研修におけるフレキシブルな対応を望む。
- 在学中に実際に患者さんに治療してないので、すべて一から指導しなければなりません。病院歯科ではスタッフも多くなり、忙しい中を指導するにはストレスがたまりません。学生時代から、指導医の下に臨床実習を行うべきだと思います。
- 各機関、施設における研究、教育のことも含めて臨床研修を強化したいことが本当に歯科医療の質の向上に繋がっているのかをしっかりと確認して頂きたいと思えます。また、研修期間の延長(1年の研修期間では短すぎるケースも多々見受けられるように思えます。)、卒前教育レベルの均一化についてもご検討頂ければ幸いです。

総回答者数	259人
【必須入力チェック項目】	
Q1 臨床研修指導医を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
【数値入力チェック項目】チェック項目	
Q2 臨床研修医の初期研修を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	2 (0.8%)
卒業臨床研修施設	6 (2.3%)
専攻臨床研修施設	258 (99.6%)
臨床研修施設	0 (0.0%)
無回答	
【数値入力チェック項目】チェック項目	
Q3 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	189 (73.3%)
卒業臨床研修施設	80 (29.7%)
専攻臨床研修施設	0 (0.0%)
臨床研修施設	
無回答	
Q4 研修医の研修期間と人数を回答ください(複数の研修医が研修する場合はそれぞれ回答してください) 【数値入力チェック項目】	
Q4-1 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
【数値入力チェック項目】	
Q4-2 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q4-3 【数値入力チェック(小)】(回答数:173件)	
【数値入力チェック項目】	
Q5 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q6 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
【数値入力チェック項目】	
Q7 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q8 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q9 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q10 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q11 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q12 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q13 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q14 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q15 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q16 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q17 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q18 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q19 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q20 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q21 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q22 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q23 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q24 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q25 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q26 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	
Q27 研修医の研修期間を回答ください 【数値入力チェック(小)】(回答数:259件)	

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q8 貴施設で用いている研修医科医の研修方法を選択してください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

研修医科医専修	149	(57.5%)
ポーンチオリオ	84	(32.4%)
DEBUT	56	(21.6%)
職歴研修	18	(7.0%)
口頭試験	148	(57.5%)
OSCE	8	(3.1%)
レポート	82	(31.7%)
症例検討会・院内勉強会等における発表	106	(40.9%)
その他	7	(2.7%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q9 貴施設の指導医科医の指導能力向上のための取り組みについて選択してください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

院内FDの開催	182	(49.5%)
管理型臨床研修施設主催のFDへの参加	88	(28.3%)
管理型臨床研修施設主催以外のFDへの参加	67	(20.5%)
その他	12	(3.7%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q10 臨床研修に関する情報収集の手段について選択してください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

管理型臨床研修施設	205	(79.2%)
他の協力型臨床研修施設	98	(37.8%)
同僚医	80	(30.9%)
同科長同僚	74	(27.4%)
同科長同僚	66	(24.7%)
大学病院と業務している勤務医	108	(40.9%)
インターネット	96	(37.1%)
書籍	9	(3.5%)
その他	8	(3.1%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q11 研修医科医の選定について回答ください(在籍期間で受け入れている場合は、わかる範囲で回答ください)。
 【質問を含む質問]

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q12 研修医科医の選定について回答ください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

有	132	(51.0%)
一部有	26	(10.0%)
無	101	(39.0%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q1-3 所属する施設について回答ください。
 【ラジオボタン】 (回答数:259件)

有	45	(17.4%)
無	12	(4.6%)
無回答	202	(78.0%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q11-4 社会医科医の加入について回答ください。
 【ラジオボタン】 (回答数:259件)

有	172	(66.4%)
無	87	(33.6%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q11-5 労働医科医の加入について回答ください。
 【ラジオボタン】 (回答数:259件)

有	178	(68.7%)
無	81	(31.3%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q11-6 在宅または在宅手届について回答ください。
 【ラジオボタン】 (回答数:259件)

有	57	(22.0%)
無	202	(78.0%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q12 研修医科医の選定について回答ください。
 【質問を含む質問]

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q12-1 貴施設に属する研修医科医数について回答ください。
 【数値入力テキスト(小)] (回答数:259件)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q12-2 貴施設に属する研修医科医数について回答ください。
 【数値入力テキスト(小)] (回答数:259件)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q13 研修医科医の選定について回答ください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

医療安全体制の充実	65	(25.1%)
医療の質の向上	59	(22.8%)
研修医科医を推薦することによる指導医科医の自己研鑽	202	(78.0%)
指導能力の向上	135	(52.1%)
診療所の活発化	180	(69.5%)
業績向上の向上	12	(4.6%)
管理型臨床研修施設との交流	124	(47.9%)
他の協力型臨床研修施設との交流	33	(12.7%)
医師情報の手配	117	(45.2%)
研修への医科医	145	(56.0%)
日本の医科医	4	(1.5%)
その他	0	(0.0%)
無回答	0	(0.0%)

【必須入力チェック項目】アンケート調査項目
 Q14 研修医科医の選定について回答ください。
 【チェックボックス】 (回答数:259件)

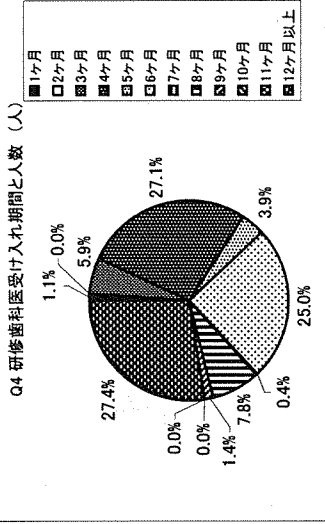
研修医科医の専修・専攻	102	(39.4%)
研修医科医の採用レベル	91	(35.1%)
研修医科医の採用レベル	145	(56.0%)
研修医科医の採用レベル	71	(27.4%)
研修医科医の採用レベル	123	(47.5%)
研修医科医の採用レベル	23	(8.9%)
研修医科医の採用レベル	63	(24.3%)
研修医科医の採用レベル	92	(35.5%)
研修医科医の採用レベル	16	(6.2%)
研修医科医の採用レベル	16	(6.2%)
研修医科医の採用レベル	58	(22.4%)
研修医科医の採用レベル	18	(6.9%)
研修医科医の採用レベル	26	(10.0%)
研修医科医の採用レベル	76	(29.3%)
研修医科医の採用レベル	16	(6.2%)
研修医科医の採用レベル	116	(44.8%)
研修医科医の採用レベル	8	(3.1%)
研修医科医の採用レベル	0	(0.0%)
無回答	0	(0.0%)

別添資料 11

協力型臨床研修施設向け研修の効果に関するアンケート

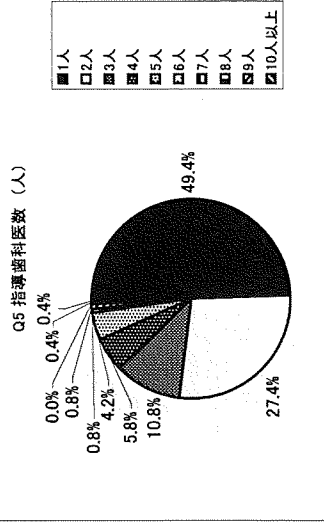
Q4 研修歯科医の受け入れ期間と人数を回答ください (人)

1ヶ月	8人
2ヶ月	0人
3ヶ月	45人
4ヶ月	206人
5ヶ月	30人
6ヶ月	190人
7ヶ月	3人
8ヶ月	59人
9ヶ月	11人
10ヶ月	0人
11ヶ月	0人
12ヶ月以上	208人
回答数	780人



Q5 指導歯科医総数を回答ください (人)

1人	128施設
2人	71施設
3人	28施設
4人	15施設
5人	11施設
6人	2施設
7人	2施設
8人	0施設
9人	1施設
10人以上	1施設
回答数	259施設



【必須入力チェック項目】
Q15 卒業後の研修歯科医の受け入れについて回答ください。
【ラジオボタン】 (回答数: 559件)

卒業より多数	37 (14.3%)
卒業と同数	189 (73.0%)
卒業より少数	23 (8.8%)
受け入れない	10 (3.9%)
無回答	0 (0.0%)

【必須入力チェック項目】
Q16 適切な研修施設での研修期間について回答ください。
【ラジオボタン】 (回答数: 259件)

1年間	188 (72.8%)
2年間	63 (24.3%)
その他	8 (3.1%)
無回答	0 (0.0%)

【必須入力チェック項目】
Q17 適切な協力型臨床研修施設での研修期間について回答ください。
【ラジオボタン】 (回答数: 259件)

1ヶ月間	0 (0.0%)
3-4ヶ月間	48 (17.8%)
6ヶ月間	112 (43.2%)
8ヶ月間	42 (16.2%)
1年間	59 (22.8%)
無回答	0 (0.0%)

【必須入力チェック項目】
Q18 新設協力型臨床研修施設の歯科医数の実質の向上への貢献について回答ください。
【ラジオボタン】 (回答数: 259件)

貢献した	127 (49.0%)
少し貢献した	118 (45.6%)
あまり貢献していない	10 (3.9%)
貢献していない	4 (1.5%)
無回答	0 (0.0%)

【必須入力チェック項目】
Q19 研修歯科医に習むことを促進してください。
【テキストエリア】 (回答数: 171件)

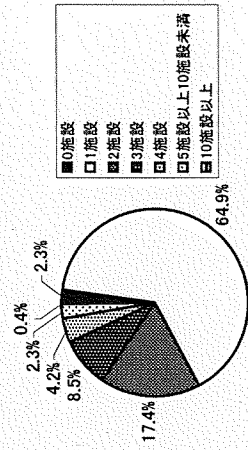
Q20 協理型臨床研修施設に習むことを促進してください。
【テキストエリア】 (回答数: 153件)

Q21 他に習むことを促進してください。
【テキストエリア】 (回答数: 127件)

Q6 貴施設が指定を受けている管理型臨床研修施設総数を回答ください（施設）

0施設	6施設
1施設	168施設
2施設	45施設
3施設	22施設
4施設	11施設
5施設以上10施設未満	6施設
10施設以上	1施設
回答数	259施設

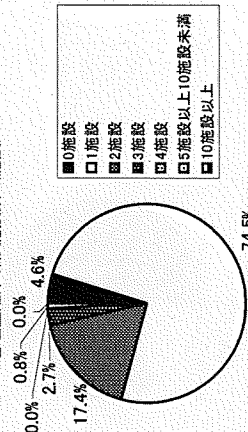
Q6 貴施設が指定を受けている管理型臨床研修施設総数（人）



Q6-1 Q6のうち平成21年度に貴施設に研修歯科医を派遣した管理型臨床研修施設数（施設）

0施設	12施設
1施設	193施設
2施設	45施設
3施設	7施設
4施設	0施設
5施設以上10施設未満	2施設
10施設以上	0施設
回答数	259施設

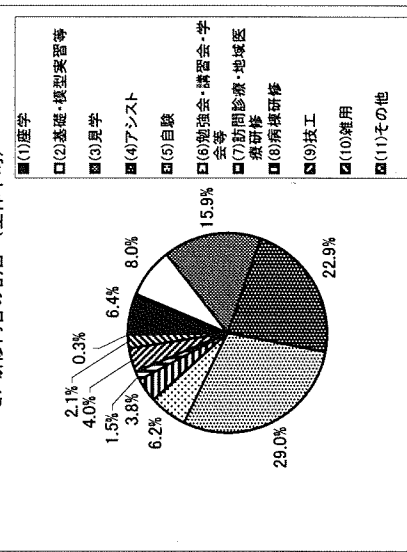
Q6-1 平成21年度に貴施設に研修歯科医を派遣した管理型臨床研修施設数（施設）



Q7 貴施設すべての研修内容を100%として、各研修内容の時間ペース%を回答ください（全体平均）

(1)座学	6.4%
(2)基礎・模型実習等	8.0%
(3)見学	15.9%
(4)アシスト	22.9%
(5)自験	29.0%
(6)勉強会・講習会・学会等	6.2%
(7)訪問診療・地域医療研修	3.8%
(8)病棟研修	1.5%
(9)技工	4.0%
(10)雑用	2.1%
(11)その他	0.3%

Q7 研修内容の割合（全体平均）



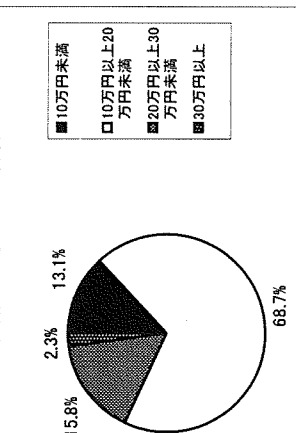
注：全体で100%となっていないデータは集計対象外とした。

Q11-1 研修歯科医の処遇について回答ください

（在籍型出向で受け入れられている場合は、わかる範囲で回答ください）給与（円）

10万円未満	34施設
10万円以上20万円未満	178施設
20万円以上30万円未満	41施設
30万円以上	6施設
回答数	259施設

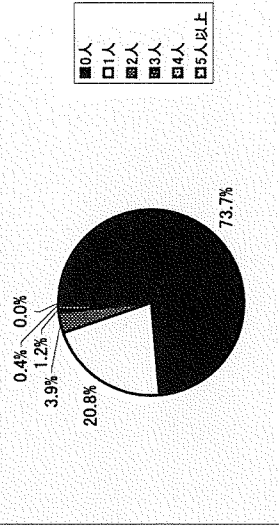
Q11-1 研修歯科医の処遇について（給与）



Q12-1 研修歯科医の進路について回答ください 貴施設に残る研修歯科医数 (人)

0人	191施設
1人	54施設
2人	10施設
3人	3施設
4人	1施設
5人以上	0施設
回答数	259施設

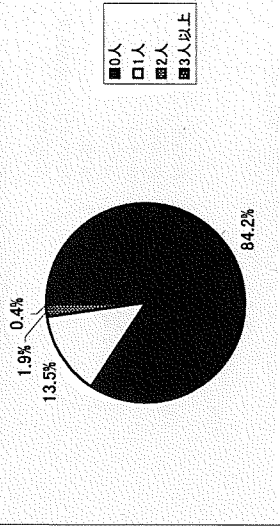
Q12-1 研修歯科医の進路 (貴施設に残る研修歯科医数の割合)



Q12-2 研修歯科医の進路について回答ください 貴施設と関連した施設 (管理型臨床研修施設は除く)に残る研修歯科医数 (人)

0人	218施設
1人	35施設
2人	5施設
3人以上	1施設
回答数	259施設

Q12-2 研修歯科医の進路 (貴施設と関連した管理型臨床研修施設を除く施設に残る研修歯科医数の割合)



別添資料 12

Q19 研修歯科医に望むことを記載してください。(抜粋)

- なるべく教えたことをいかしてほしいので、研修後もできたら当院に就職して引き続き勉強してもらいたい。
- 患者さんへの真摯な態度が必要だと思います。患者・スタッフへの感謝の気持ちを持ち、社会人として責任ある行動をとって欲しい。
- 管理型臨床研修施設における 4 ヶ月間の初期研修の間に、しっかり基本的な技術を習得してから、協力的に研修に来て欲しい。
- 自分から積極的に言う姿勢を示すと共に、まわりのスタッフに支えられていることを常に自覚して行動すること。
- 技術、知識が不足しているのは解っているので、意欲的であり、しかしながら注意深く、患者に気配りができる先生であってほしい。
- 印象ぐらいまともに採れるようになっていてもらいたい。
- プロ意識を持つ。
- 大学時代に臨床にもっと接したほうがいい。
- 歯科医療の問題点を自ら率先して解決する姿勢をもってもらいたい。歯科医療を通しての社会貢献を考えてもらいたい。
- 歯科医として基本を学ぶことが大切なこの時期、過大な期待を持たないこと。例としてインプラントなどは基本を習熟してからでも遅くないこと。
- 将来 (5 年後・10 年後) のビジョンを持ってほしい。
- 突然の欠勤は、周囲からの信用を失墜させます、本当に休まなければならぬ事象なのか良く考えて休んで頂きたい。学生ではなく、歯科医師として派遣されていることを忘れないで欲しい。
- 歯科医師としての自覚。(身だしなみ、言葉づかい等も) 臨床研修の目的を理解し患者さんを大切に研修してほしい。
- 人間として、歯科医師として、患者さんのためになるように立派な歯科医師になってください。歯だけではなく、口全体を、また、体全体を見れる歯科医師になってほしいと思います。
- 意欲を持って研修して欲しい。積極的に研修に取り組んで欲しい。コミュニケーション能力を磨き、患者さんのみならず、スタッフや、指導医とも連携がきちんとできるようになって欲しい。
- 歯科医の素晴らしさを体験して欲しい。

Q20 管理型臨床研修施設に望むことを記載してください。(抜粋)

- 前期大学病院にいる場合、保険点数やカルテ入力はある程度勉強しておいてもらいたい。
- 協力型施設の連携がほとんどないので、他の研修医の進行状況等を管理型施設がまとめての研修医受入れでしたので書類等の煩雑な作業に対し回答に困惑し、時間がかかってしまった。視察に来て、時間を割いていただいたことにはとても感謝しております。
- 研修医の方は基礎的な知識は充実していると思います。現場での応用力や、社会人としてのエチケツ的な発想、患者様への思いやり、スタッフへの労い、感謝、そして経営的発想をもっと持つような教育をしてほしい。
- 研修歯科医の徹底教育。今の管理型ではただのまるなげのように思われる。
- 協力型施設が受け入れやすいような体制。一年間を通して頭数が同じになるように勤務研修しているような状態を作ってもらいたい。特定の季節や、マッチングの結果でプランクがあったりするものは受け入れにくく、医院としての診療体系に響く。
- ポートフォリオを毎日しっかり書き、解答しているの、しっかりとした評価体制を強いてほしい。
- 協力型施設からの研修医の評価だけでなく、研修医が協力型施設を評価することでも協力型施設も問題解決の努力や参考になり、研修医を預かるメモリットとなるのではないかな？
- 徹底的な技術指導と医療倫理を望む。学部の子生のうちにもっと経験させると良いのでは。
- 研修医を派遣する前にスケーリング、印象、CR充填等基本治療は出来るようにしてから派遣して欲しい。安易に欠勤しないよう指導して欲しい。
- 前期0名、後期2名という格差に困惑し、住居などの諸事情もあり心労した。総教2名であれば前期後期に分けていただくなどの配慮をしていただきたいかな。説明会や臨床研修委員会をできるだけ多く開催していただくのを平日に行う場合は夜間や19時ごろからの開催にしてもらえると助かります。どうしても平日に行う場合は夜間や19時ごろからの開催にしてもらえると助かります。研修歯科医の処遇を出向方にしてもらえると助かります。

Q21 国に望むことを記載してください。(抜粋)

- 施設基準の緩和（歯科医師と歯科衛生士がおおむね同数と言った事。見習い期間の歯科医師がいて、そう言った歯科医師には衛生士をつけないので、同数の衛生士を確保しづらい）補助金の増額（研修医の給与分は確保したい）、事務手続きの簡略化。
- 研修医制度の是非。
- 国の行う事業に協力した施設への感謝の念を形に表すこと。金銭的なことではなく、文書や表彰状のようなものでも良いだろう。管理型、協力型を問わず、無形の協力によって成り立っている制度であることを意思表示した方がよい。
- 歯科医療そのものが、若い歯科医師にとって魅力あるものであるよう、ご尽力いただきたいと思えます。具体的にはある程度の保険点数で、生活が保証されるようではなく、れば、歯科界に人材が集まらなれないと思えます。また歯科医師が活動する場が少なく、開業しなければ仕事をすることがないのが現状です。保険診療で収益があるような、常識的な保険点数が確保できれば、病院歯科の活躍の場も増加すると思います。
- できるだけ具体的な新歯科医師臨床研修制度の成果の評価をさせていただきたい。それに基づいてプログラムを更に改善していただきたい。
- 研修医にとっても、施設にとっても素晴らしいシステムだと思えます。自分の時代にこのような、システムがあったら、もっと人生の選択肢が増えたと思えます。但し学生時代にポリクリを復活させて頂きたい。
- 全国の臨床研修施設にはそれぞれの先生方の考え方や、医療に対しての取り組み方が有ると思いますが、研修医にとっては在学中の臨床経験が殆んど無いので行った施設先の治療法や考え方にどうしても染められてしまう事が多いと思います。現状、研修医は行った施設先の指示に従うしか有りませんが出来ればもう少しハッキリとした指針の見える必要最低限何らかのカリキュラムやマニュアル等を作成して貰えればと考えます。大学ごとに臨床研修のシステムを組むのではなく、厚生労働省で統一した企画で実施した方が良いでしょう。
- あまりに医科と歯科の研修医の待遇が違い過ぎると思うので、もう少し近づけられるように努力していただきたい。
- 開業医に丸投げはどうかと思えます。日本の教育機関の教育放棄と思っています。
- 研修医の診療だと、医療費が安くなるようなことをしてほしい。そうなること、術者、患者両者が、納得のうえ、診療ができるし、研修医の、数もこなせよう。ただし、大学病院などのみのほうが、望ましいと思えます。
- 6年間の専門大学教育を終えた学生が出来うる限り即戦力になるような教育システムを構築していただきたい。現在は大学卒業だけではまだ十分な技量が身についていないのが当たり前前のような風潮がありますが、これは良くない。もちろん日進月歩の世界です。大学卒業程度ではまだまだ未熟なのはわかれますが、未熟と出来ないのが当たり前は違うことだと思えます。

「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」

分担研究者 秋山仁志（日本歯科大学附属病院教授）

研究要旨：平成 18 年度に必修化された歯科医師臨床研修により、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。歯科医師臨床研修制度の見直しのための基礎的資料を得るために、研修歯科医のメンタルヘルスを経年的に検討することを目的とし、平成 18 年度、平成 19 年度、平成 20 年度に引き続き、必修化 4 年目における平成 21 年度の研修歯科医のメンタルヘルスを把握するためにアンケート調査を行った。アンケートの回答者数は 596 名（男性 349 名、女性 247 名）であった。研修歯科医全体でみた場合、健康リスクは 94 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団と比較して変わらない傾向があることが認められた。また、抑うつ状態自己評価尺度（CES-D）でみた結果、研修歯科医 596 名の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点が 16.5 点（標準偏差 10.6 点）で Cut-off point（区分点）の 16 点以上を示した。また 16 点以上であった研修歯科医は 257 名存在し、研修歯科医の 43.1%が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

A. 研究目的

平成 18 年 4 月より歯科医師臨床研修制度が必修化され、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。歯科医師臨床研修は、患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけ、臨床研修を生涯研修の第一歩とすることのできるものでなければならず¹⁾、研修歯科医が精神的、経済的に安定して研修に専念できるような研修体制を整備することは、研修歯科医の資質の向上を努めるためにも必要であり、また研修歯科医の職場における健康管理上、重要な問題である。さらに臨床研修の中断及び休止例等の理由の 1 つに研修歯科医の精神的要因が認められている²⁾ことから、研修歯科医のメンタルヘルスを把握することは重要である。

平成 18 年度必修化初年度、平成 19 年度必修化 2 年目、平成 20 年度必修化 3 年目において、厚生労働科学特別研究事業の一環として「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」を実施し、各年度の研修歯科医からメンタルヘルスに関する

貴重な資料を得ることができた^{3,4,5)}。新歯科医師臨床研修制度は、「厚生労働大臣は、省令の施行後 5 年以内（平成 22 年まで）に、省令の規定について所要の検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」とされており、歯科医師臨床研修制度の見直しのための基礎的資料を得るために、現在行われている歯科医師臨床研修に携わる全研修歯科医を対象としたアンケート調査を継続的に行い、データの収集、分析が必要である。

今回、歯科医師の資質向上に対する効果や歯科医療現場への影響について調査し、新制度の有効性、効率性を評価するとともに、研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査を継続的に行い、研修歯科医のメンタルヘルスを経年的に検討するために、必修化 4 年目における研修歯科医のメンタルヘルスの把握について調査を行った。

B. 研究方法

1. 対象

平成 21 年度に新歯科医師臨床研修制度で歯科医師臨床研修を行っているすべての研修歯科医

(2381名)を対象とした。

2. アンケート調査期間とアンケート方法

アンケート調査期間は、平成22年2月1日から平成22年2月28日までとした。

研修歯科医対象のアンケート調査は、厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイトD-REIS (<http://www.d-reis.org>)⁶⁾ からリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ上で回答ができるように整備した。研修歯科医へのアンケート回答依頼方法は、調査研修班の主任研究者から各単独型臨床研修施設、管理型臨床研修施設にメールにて、臨床研修を行っている研修歯科医にWEB上でアンケートに回答を行うように依頼文を添付し、周知徹底を行った。

アンケートに回答する研修歯科医は、本研究班ホームページ <http://www.drmp.jp/kenkyuhan> にアクセス後、アンケートリスト中の「研修歯科医の方」をクリックし、所属の研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、研修歯科医向けアンケートのページへと進む。研修歯科医向けアンケートページ中に「研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査」があり、アンケート開始をクリックし、設問に回答する。すべての回答の終了後、最後に送信ボタンを押し、確認のページに進み、確認のページの最下部の送信ボタンを押して終了とする。

メンタルヘルスに関するアンケート調査は、本研究班ホームページ上に実施責任者および実施者と実施目的を明示した。また、ログイン時にのみ外部者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、アンケートに対する回答に関しては、研修歯科医の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに研修歯科医に不利益をもたらさないように、個人の識別を不可能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。

3. ストレス調査項目

アンケート調査項目数は、すべての設問に回答するのに5~10分程度の時間で終わることができ

るように設定した。調査項目は、性別についての1項目、研修施設の種別についての1項目、協力型施設数についての1項目、住居環境についての1項目、研修修了後の今後の予定についての1項目、ストレス要因の認知として、簡易職業性ストレス評価票⁷⁾の57項目、ストレス反応としての抑うつ状態の評価に抑うつ状態自己評価尺度(CES-D) (The Center For Epidemiologic Studies-Depression、株式会社千葉テストセンター)⁸⁾の20項目の合計82項目とした。また研修歯科医として「ストレスを感じる事」についての自由記載ができるように整備した。

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートで使用した調査票は表1に示す。

4. 倫理面への配慮

本研究は、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の審査の結果、承認を得て施行した。

5. 分析方法

職業性ストレス簡易調査票⁷⁾の各調査項目は、臨床研修施設の種別ごとに、各尺度に該当する項目の点数を算出し、その点数を5段階に換算して評価する標準化得点を用いた方法を用いて分析した。さらに仕事のストレス判定図として、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量-コントロール判定図」、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定図」を作成し、量-コントロールリスク、職場の支援リスク、総合した健康リスクを算出した。抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁸⁾は、スクリーニングテストの1つであり、幼児から成人とその適用範囲は広く、実施判定が簡便である。抑うつ気分、不眠、食欲低下などのうつ病の主要症状が含まれた20項目の設問から構成され、設問の4, 8, 12, 16項目は逆転項目として組み込まれており、4段階評価で0~3点に換算して集計する。抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁸⁾のCut-off point (区分点)は、16点であり、16点以上を「抑うつ状態」とし、「抑うつ状態」の割合を調べた。

C. 研究結果

1. 研修歯科医アンケート調査結果

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートの総回答者数は、596名であり、平成21年度に臨床研修を行っている研修歯科医の25.0%から回答を得た。

1) 性別でみた割合

性別でみた割合は、男性349名(58.6%)、女性247名(41.4%)であった。

2) 研修施設の種別でみた割合

研修施設の種別でみた割合は、大学病院(管理型)+診療所(協力型)が227名(38.1%)、歯科大学病院(単独型)が172名(28.9%)、病院口腔外科(単独型)が87名(14.6%)、大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)が61名(10.2%)、一般病院歯科(単独型)が26名(4.4%)、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)が6名(1.0%)、病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)が4名(0.7%)、診療所(管理型)+診療所(協力型)が3名(0.5%)、その他が10名(1.7%)であった。

3) 研修済(または予定)の協力型施設数でみた割合

単独型が268名(45.0%)、1施設が269名(45.1%)、2施設が49名(8.2%)、3施設以上が10名(1.7%)であった。

4) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾における「仕事について」の項目でみた割合

(1)「非常にたくさんのことをしなければならない」への回答

「そうだ」が165名(27.7%)、「まあそうだ」が278名(46.6%)、「ややちがう」が121名(20.3%)、「ちがう」が32名(5.4%)であった。

(2)「時間内に仕事を処理しきれない」への回答

「そうだ」が150名(25.2%)、「まあそうだ」が233名(39.1%)、「ややちがう」が150名(25.2%)、「ちがう」が63名(10.6%)であった。

(3)「一生懸命働かなければならない」への回答

「そうだ」が302名(50.7%)、「まあそうだ」が229名(38.4%)、「ややちがう」が50名(8.4%)、「ちがう」が15名(2.5%)であった。

(4)「かなり注意を集中する必要がある」への回答

「そうだ」が306名(51.3%)、「まあそうだ」が239名(40.1%)、「ややちがう」が43名(7.2%)、「ちがう」が8名(1.3%)であった。

(5)「高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ」への回答

「そうだ」が268名(45.0%)、「まあそうだ」が249名(41.8%)、「ややちがう」が65名(10.9%)、「ちがう」が14名(2.3%)であった。

(6)「勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない」への回答

「そうだ」が181名(30.4%)、「まあそうだ」が271名(45.5%)、「ややちがう」が118名(19.8%)、「ちがう」が26名(4.4%)であった。

(7)「からだを大変よく使う仕事だ」への回答

「そうだ」が194名(32.6%)、「まあそうだ」が264名(44.3%)、「ややちがう」が117名(19.6%)、「ちがう」が21名(3.5%)であった。

(8)「自分のペースで仕事ができる」への回答

「そうだ」が53名(8.9%)、「まあそうだ」が193名(32.4%)、「ややちがう」が239名(40.1%)、「ちがう」が111名(18.6%)であった。

(9)「自分で仕事の順番・やり方を決めることができる」への回答

「そうだ」が65名(10.9%)、「まあそうだ」が232名(38.9%)、「ややちがう」が196名(32.9%)、「ちがう」が103名(17.3%)であった。

(10)「職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる」への回答

「そうだ」が58名(9.7%)、「まあそうだ」が204名(34.2%)、「ややちがう」が201名(33.7%)、「ちがう」が133名(22.3%)であった。

(11)「自分の技術や知識を仕事で使うことが少ない」への回答

「そうだ」が42名(7.0%)、「まあそうだ」が122名(20.5%)、「ややちがう」が307名(51.5%)、「ちがう」が125名(21.0%)であった。

(12) 「私の部署内で意見の食い違いがある」への回答

「そうだ」が75名(12.6%)、「まあそうだ」が188名(31.5%)、「ややちがう」が233名(39.1%)、「ちがう」が100名(16.8%)であった。

(13) 「私の部署と他の部署とはうまが合わない」への回答

「そうだ」が52名(8.7%)、「まあそうだ」が108名(18.1%)、「ややちがう」が268名(45.0%)、「ちがう」が168名(28.2%)であった。

(14) 「私の職場の雰囲気は友好的である」への回答

「そうだ」が200名(33.6%)、「まあそうだ」が283名(47.5%)、「ややちがう」が68名(11.4%)、「ちがう」が45名(7.6%)であった。

(15) 「私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない」への回答

「そうだ」が41名(6.9%)、「まあそうだ」が118名(19.8%)、「ややちがう」が256名(43.0%)、「ちがう」が181名(30.4%)であった。

(16) 「仕事の内容は自分にあっている」への回答

「そうだ」が119名(20.0%)、「まあそうだ」が341名(57.2%)、「ややちがう」が106名(17.8%)、「ちがう」が30名(5.0%)であった。

(17) 「働きがいのある仕事だ」への回答

「そうだ」が215名(36.1%)、「まあそうだ」が300名(50.3%)、「ややちがう」が52名(8.7%)、「ちがう」が29名(4.9%)であった。

5) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾における「最近1カ月間のあなたの状態について」の項目でみた割合

(1) 「活気がわいてくる」への回答

「ほとんどなかった」が83名(13.9%)、「ときどきあった」が248名(41.6%)、「しばしばあった」が181名(30.4%)、「ほとんどいつもあった」が84名(14.1%)であった。

(2) 「元気がいっぱいだ」への回答

「ほとんどなかった」が90名(15.1%)、「ときどきあった」が244名(40.9%)、「しばしばあった」が163名(27.3%)、「ほとんどいつもあった」が99名(16.6%)であった。

(3) 「生き生きする」への回答

「ほとんどなかった」が95名(15.9%)、「ときどきあった」が238名(39.9%)、「しばしばあった」が176名(29.5%)、「ほとんどいつもあった」が87名(14.6%)であった。

(4) 「怒りを感じる」への回答

「ほとんどなかった」が180名(30.2%)、「ときどきあった」が238名(39.9%)、「しばしばあった」が127名(21.3%)、「ほとんどいつもあった」が51名(8.6%)であった。

(5) 「内心腹立たしい」への回答

「ほとんどなかった」が207名(34.7%)、「ときどきあった」が225名(37.8%)、「しばしばあった」が105名(17.6%)、「ほとんどいつもあった」が59名(9.9%)であった。

(6) 「イライラしている」への回答

「ほとんどなかった」が201名(33.7%)、「ときどきあった」が235名(39.4%)、「しばしばあった」が110名(18.5%)、「ほとんどいつもあった」が50名(8.4%)であった。

(7) 「ひどく疲れた」への回答

「ほとんどなかった」が94名(15.8%)、「ときどきあった」が245名(41.1%)、「しばしばあった」が162名(27.2%)、「ほとんどいつもあった」が95名(15.9%)であった。

(8) 「へとへとだ」への回答

「ほとんどなかった」が149名(25.0%)、「ときどきあった」が235名(39.4%)、「しばしばあった」が122名(20.5%)、「ほとんどいつもあった」が90名(15.1%)であった。

(9) 「だるい」への回答

「ほとんどなかった」が160名(26.8%)、「ときどきあった」が229名(38.4%)、「しばしばあった」が124名(20.8%)、「ほとんどいつもあった」が83名(13.9%)であった。

(10) 「気がはりつめている」への回答

「ほとんどなかった」が114名(19.1%)、「ときどきあった」が234名(39.3%)、「しばしばあった」が156名(26.2%)、「ほとんどいつもあった」が92名(15.4%)であった。

(11) 「不安だ」への回答

「ほとんどなかった」が162名(27.2%)、「と

きどきあった」が228名(38.3%)、「しばしばあった」が128名(21.5%)、「ほとんどいつもあった」が78名(13.1%)であった。

(12)「落ち着きがない」への回答

「ほとんどなかった」が245名(41.1%)、「ときどきあった」が215名(36.1%)、「しばしばあった」が80名(13.4%)、「ほとんどいつもあった」が56名(9.4%)であった。

(13)「ゆううつだ」への回答

「ほとんどなかった」が201名(33.7%)、「ときどきあった」が223名(37.4%)、「しばしばあった」が103名(17.3%)、「ほとんどいつもあった」が69名(11.6%)であった。

(14)「何をしても面倒だ」への回答

「ほとんどなかった」が249名(41.8%)、「ときどきあった」が227名(38.1%)、「しばしばあった」が77名(12.9%)、「ほとんどいつもあった」が43名(7.2%)であった。

(15)「物事に集中できない」への回答

「ほとんどなかった」が285名(47.8%)、「ときどきあった」が223名(37.4%)、「しばしばあった」が58名(9.7%)、「ほとんどいつもあった」が30名(5.0%)であった。

(16)「気分が晴れない」への回答

「ほとんどなかった」が230名(38.6%)、「ときどきあった」が220名(36.9%)、「しばしばあった」が82名(13.8%)、「ほとんどいつもあった」が64名(10.7%)であった。

(17)「仕事が手につかない」への回答

「ほとんどなかった」が369名(61.9%)、「ときどきあった」が160名(26.8%)、「しばしばあった」が43名(7.2%)、「ほとんどいつもあった」が24名(4.0%)であった。

(18)「悲しいと感じる」への回答

「ほとんどなかった」が329名(55.2%)、「ときどきあった」が166名(27.9%)、「しばしばあった」が62名(10.4%)、「ほとんどいつもあった」が39名(6.5%)であった。

(19)「めまいがする」への回答

「ほとんどなかった」が435名(73.0%)、「ときどきあった」が113名(19.0%)、「しばしばあった」が28名(4.7%)、「ほとんどいつもあった」

が20名(3.4%)であった。

(20)「体のふしぶしが痛む」への回答

「ほとんどなかった」が410名(68.8%)、「ときどきあった」が118名(19.8%)、「しばしばあった」が40名(6.7%)、「ほとんどいつもあった」が28名(4.7%)であった。

(21)「頭が重かったり頭痛がする」への回答

「ほとんどなかった」が297名(49.8%)、「ときどきあった」が190名(31.9%)、「しばしばあった」が82名(13.8%)、「ほとんどいつもあった」が27名(4.5%)であった。

(22)「首筋や肩がこる」への回答

「ほとんどなかった」が160名(26.8%)、「ときどきあった」が193名(32.4%)、「しばしばあった」が131名(22.0%)、「ほとんどいつもあった」が112名(18.8%)であった。

(23)「腰が痛い」への回答

「ほとんどなかった」が221名(37.1%)、「ときどきあった」が211名(35.4%)、「しばしばあった」が98名(16.4%)、「ほとんどいつもあった」が66名(11.1%)であった。

(24)「目が疲れる」への回答

「ほとんどなかった」が133名(22.3%)、「ときどきあった」が210名(35.2%)、「しばしばあった」が173名(29.0%)、「ほとんどいつもあった」が80名(13.4%)であった。

(25)「動悸や息切れがする」への回答

「ほとんどなかった」が448名(75.2%)、「ときどきあった」が104名(17.4%)、「しばしばあった」が29名(4.9%)、「ほとんどいつもあった」が15名(2.5%)であった。

(26)「胃腸の具合が悪い」への回答

「ほとんどなかった」が322名(54.0%)、「ときどきあった」が151名(25.3%)、「しばしばあった」が79名(13.3%)、「ほとんどいつもあった」が44名(7.4%)であった。

(27)「食欲がない」への回答

「ほとんどなかった」が429名(72.0%)、「ときどきあった」が122名(20.5%)、「しばしばあった」が34名(5.7%)、「ほとんどいつもあった」が11名(1.8%)であった。

(28)「便秘や下痢をする」への回答

「ほとんどなかった」が328名(55.0%)、「ときどきあった」が148名(24.8%)、「しばしばあった」が73名(12.2%)、「ほとんどいつもあった」が47名(7.9%)であった。

(29)「よく眠れない」への回答

「ほとんどなかった」が390名(65.4%)、「ときどきあった」が122名(20.5%)、「しばしばあった」が51名(8.6%)、「ほとんどいつもあった」が33名(5.5%)であった。

6) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾における「あなたの周りの方々について」の項目でみた割合

(1)「次の人たちにはどのくらい気軽に話ができますか」への回答

a. 上司

「非常に」が106名(17.8%)、「かなり」が156名(26.2%)、「多少」が284名(47.7%)、「全くない」が50名(8.4%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が269名(45.1%)、「かなり」が204名(34.2%)、「多少」が111名(18.6%)、「全くない」が12名(2.0%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が364名(61.1%)、「かなり」が166名(27.9%)、「多少」が62名(10.4%)、「全くない」が4名(0.7%)であった。

(2)「あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」への回答

a. 上司

「非常に」が168名(28.2%)、「かなり」が195名(32.7%)、「多少」が185名(31.0%)、「全くない」が48名(8.1%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が194名(32.6%)、「かなり」が231名(38.8%)、「多少」が143名(24.0%)、「全くない」が28名(4.7%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が301名(50.5%)、「かなり」が186名(31.2%)、「多少」が97名(16.3%)、「全くない」が12名(2.0%)であった。

(3)「あなたが個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」への回答

a. 上司

「非常に」が125名(21.0%)、「かなり」が210名(35.2%)、「多少」が204名(34.2%)、「全くない」が57名(9.6%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が186名(31.2%)、「かなり」が249名(41.8%)、「多少」が135名(22.7%)、「全くない」が26名(4.4%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が328名(55.0%)、「かなり」が206名(34.6%)、「多少」が56名(9.4%)、「全くない」が6名(1.0%)であった。

7) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾における「満足度について」の項目でみた割合

(1)「仕事に満足だ」への回答

「満足」が164名(27.5%)、「まあ満足」が292名(49.0%)、「やや不満足」が98名(16.4%)、「不満足」が42名(7.0%)であった。

(2)「家庭生活に満足だ」への回答

「満足」が229名(38.4%)、「まあ満足」が278名(46.6%)、「やや不満足」が62名(10.4%)、「不満足」が27名(4.5%)であった。

8) 住居環境でみた割合

「自宅(一人暮らし)からの通勤」が300名(50.3%)、「自宅(家族と同居)からの通勤」が217名(36.4%)、「研修施設が用意した宿舎からの通勤」が67名(11.2%)、「その他」が12名(2.0%)であった。

9) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁸⁾の項目でみた割合

(1)「普段ではなんでもないことがわずらわしかった」への回答

「ない」が334名(56.0%)、「週に1~2日」が203名(34.1%)、「週に3~4日」が35名(5.9%)、「週に5日以上」24名(4.0%)であった。

(2)「食べたくなかった・食欲がなかった」への回答

「ない」が455名(76.3%)、「週に1~2日」が112名(18.8%)、「週に3~4日」が25名(4.2%)、

「週に5日以上」が4名(0.7%)であった。

(3)「たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないと感じた」への回答

「ない」が392名(65.8%)、「週に1~2日」が141名(23.7%)、「週に3~4日」が42名(7.0%)、「週に5日以上」が21名(3.5%)であった。

(4)「自分は、他の人と同じくらいに価値があると感じた」への回答

「ない」が245名(41.1%)、「週に1~2日」が186名(31.2%)、「週に3~4日」が78名(13.1%)、「週に5日以上」が87名(14.6%)であった。

(5)「ものごとに集中できなかった」への回答

「ない」が323名(54.2%)、「週に1~2日」が226名(37.9%)、「週に3~4日」が33名(5.5%)、「週に5日以上」が14名(2.3%)であった。

(6)「気分が落ち込んでいると感じた」への回答

「ない」が240名(40.3%)、「週に1~2日」が234名(39.3%)、「週に3~4日」が69名(11.6%)、「週に5日以上」が53名(8.9%)であった。

(7)「やることすべてに骨が折れると感じた」への回答

「ない」が343名(57.6%)、「週に1~2日」が182名(30.5%)、「週に3~4日」が40名(6.7%)、「週に5日以上」が31名(5.2%)であった。

(8)「将来に希望があると感じた」への回答

「ない」が186名(31.2%)、「週に1~2日」が238名(39.9%)、「週に3~4日」が97名(16.3%)、「週に5日以上」が75名(12.6%)であった。

(9)「これまでの人生は失敗だったと感じた」への回答

「ない」が406名(68.1%)、「週に1~2日」が139名(23.3%)、「週に3~4日」が24名(4.0%)、「週に5日以上」が27名(4.5%)であった。

(10)「何かにびくびくすることがあった」への回答

「ない」が305名(51.2%)、「週に1~2日」が182名(30.5%)、「週に3~4日」が57名(9.6%)、「週に5日以上」が52名(8.7%)であった。

(11)「落ちつかず、眠れなかった」への回答

「ない」が420名(70.5%)、「週に1~2日」が131名(22.0%)、「週に3~4日」が29名(4.9%)、「週に5日以上」が16名(2.7%)であった。

(12)「幸せな気分だった」への回答

「ない」が142名(23.8%)、「週に1~2日」が275名(46.1%)、「週に3~4日」が120名(20.1%)、「週に5日以上」が59名(9.9%)であった。

(13)「普段より口数が少なかった」への回答

「ない」が282名(47.3%)、「週に1~2日」が240名(40.3%)、「週に3~4日」が44名(7.4%)、「週に5日以上」が30名(5.0%)であった。

(14)「ひとりぼっちだと感じた」への回答

「ない」が364名(61.1%)、「週に1~2日」が147名(24.7%)、「週に3~4日」が37名(6.2%)、「週に5日以上」が48名(8.1%)であった。

(15)「人々がよそよそしいと感じた」への回答

「ない」が380名(63.8%)、「週に1~2日」が149名(25.0%)、「週に3~4日」が38名(6.4%)、「週に5日以上」が29名(4.9%)であった。

(16)「人生を楽しんだ」への回答

「ない」が152名(25.5%)、「週に1~2日」が271名(45.5%)、「週に3~4日」が101名(16.9%)、「週に5日以上」が72名(12.1%)であった。

(17)「涙ぐむことがあった」への回答

「ない」が367名(61.6%)、「週に1~2日」が181名(30.4%)、「週に3~4日」が36名(6.0%)、「週に5日以上」が12名(2.0%)であった。

(18)「悲しい気分だった」への回答

「ない」が322名(54.0%)、「週に1~2日」が200名(33.6%)、「週に3~4日」が43名(7.2%)、「週に5日以上」が31名(5.2%)であった。

(19)「まわりの方が自分を嫌っていると感じた」への回答

「ない」が397名(66.6%)、「週に1~2日」が147名(24.7%)、「週に3~4日」が29名(4.9%)、「週に5日以上」が23名(3.9%)であった。

(20)「ものごとに手がつかないと感じた」への回答

「ない」が382名(64.1%)、「週に1~2日」が167名(28.0%)、「週に3~4日」が32名(5.4%)、「週に5日以上」が15名(2.5%)であった。

10) 今後の予定でみた割合

「研修した医療機関に就職」が156名(26.2%)、「別の医療機関に就職」が186名(31.2%)、「大

学院へ進学」が161名(27.0%)、「その他」が93名(15.6%)であった。

11) 研修歯科医として「ストレスを感じること」についての自由記載について

研修歯科医として「ストレスを感じること」についての自由記載の回答数は251件であった。自由記載の内容は表2に示す。

2. 研修歯科医アンケート分析結果

1) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾の分析による性別でみた結果

(1) 男性

仕事の量的負担の平均は9.2、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは84、総合した健康リスクは93であった。

(2) 女性

仕事の量的負担の平均は9.0、仕事のコントロールの平均は7.0、上司の支援の平均は7.9、同僚の支援の平均は9.3、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは94であった。

(3) 男女合計

仕事の量的負担の平均は9.1、仕事のコントロールの平均は7.1、上司の支援の平均は8.0、同僚の支援の平均は9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは111、職場の支援リスクは85、総合した健康リスクは94であった。

2) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾の分析による研修施設の種別でみた結果

(1) 歯科大学病院(単独型)

仕事の量的負担の平均は8.5、仕事のコントロールの平均は7.5、上司の支援の平均は8.1、同僚の支援の平均は9.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは102、職場の支援リスクは81、総合した健康リスクは82であっ

た。

(2) 一般病院歯科(単独型)

仕事の量的負担の平均は10.4、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は8.4、同僚の支援の平均は9.4、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは123、職場の支援リスクは81、総合した健康リスクは99であった。

(3) 病院口腔外科(単独型)

仕事の量的負担の平均は9.6、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は8.3、同僚の支援の平均は9.1、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは117、職場の支援リスクは83、総合した健康リスクは97であった。

(4) 大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.4、仕事のコントロールの平均は6.8、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は9.2、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは116、職場の支援リスクは87、総合した健康リスクは100であった。

(5) 大学病院(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.1、仕事のコントロールの平均は6.9、上司の支援の平均は7.8、同僚の支援の平均は8.9、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは112、職場の支援リスクは90、総合した健康リスクは100であった。

(6) 一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は10.8、仕事のコントロールの平均は7.0、上司の支援の平均は7.2、同僚の支援の平均は9.0、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは127、職場の支援リスクは94、総合した健康リスクは119であった。

(7) 診療所(管理型)+診療所(協力型)

仕事の量的負担の平均は9.0、仕事のコントロールの平均は8.0、上司の支援の平均は9.3、同僚の支援の平均は10.7、仕事のストレス判定図から得られた量-コントロールリスクは101、職場の支援リスクは65、総合した健康リスクは65であ

った。

(8) 病院口腔外科（管理型）＋診療所（協力型）
仕事の量的負担の平均は 9.5、仕事のコントロールの平均は 8.0、上司の支援の平均は 8.0、同僚の支援の平均は 8.0、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 105、職場の支援リスクは 96、総合した健康リスクは 100 であった。

(9) その他

仕事の量的負担の平均は 10.1、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 10.1、同僚の支援の平均は 10.5、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 119、職場の支援リスクは 61、総合した健康リスクは 72 であった。

3) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾ の分析による研修先施設数ごとでみた結果

(1) 単独型

仕事の量的負担の平均は 9.0、仕事のコントロールの平均は 7.3、上司の支援の平均は 8.4、同僚の支援の平均は 9.6、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 107、職場の支援リスクは 79、総合した健康リスクは 84 であった。

(2) 協力型施設 1 施設

仕事の量的負担の平均は 9.2、仕事のコントロールの平均は 6.9、上司の支援の平均は 7.8、同僚の支援の平均は 8.9、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 113、職場の支援リスクは 89、総合した健康リスクは 100 であった。

(3) 協力型施設 2 施設

仕事の量的負担の平均は 9.2、仕事のコントロールの平均は 6.5、上司の支援の平均は 7.5、同僚の支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 118、職場の支援リスクは 95、総合した健康リスクは 112 であった。

(4) 協力型施設 3 施設以上

仕事の量的負担の平均は 9.7、仕事のコントロールの平均は 7.0、上司の支援の平均は 7.7、同僚の

支援の平均は 8.6、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 116、職場の支援リスクは 93、総合した健康リスクは 107 であった。

4) 職業性ストレス簡易調査票⁷⁾ の分析による住居環境でみた結果

(1) 自宅（一人暮らし）からの通勤

仕事の量的負担の平均は 8.9、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 7.9、同僚の支援の平均は 9.2、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 109、職場の支援リスクは 86、総合した健康リスクは 93 であった。

(2) 自宅（家族と同居）からの通勤

仕事の量的負担の平均は 9.3、仕事のコントロールの平均は 7.1、上司の支援の平均は 8.0、同僚の支援の平均は 9.2、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 112、職場の支援リスクは 85、総合した健康リスクは 95 であった。

(3) 研修施設が用意した宿舎からの通勤

仕事の量的負担の平均は 9.6、仕事のコントロールの平均は 7.2、上司の支援の平均は 8.7、同僚の支援の平均は 9.6、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 77、総合した健康リスクは 87 であった。

(4) その他

仕事の量的負担の平均は 9.1、仕事のコントロールの平均は 6.8、上司の支援の平均は 6.6、同僚の支援の平均は 7.8、仕事のストレス判定図から得られた量－コントロールリスクは 114、職場の支援リスクは 112、総合した健康リスクは 127 であった。

5) 抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁸⁾ の分析による性別でみた結果

(1) 男性

抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁸⁾ でみた結果、研修歯科医の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点が 17.0 点（標準偏差 11.0 点）であった。